mundi
2015 OCTOBER No.25
[ムンディ] 平成27年10月1日発行（毎月1回1日発行） 編集・発行／独立行政法人 国際協力機構
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル TEL 03-5226-9781 FAX 03-5226-6396 http://www.jica.go.jp/
ISSN 2188-0670

私の なんとかしなきゃ！

Vol. 60

自分の目で見なければ、現実は分からない

ダンサー、俳優 **黒木 啓司**（EXILE）
Kuroki Keiji

PROFILE
2007年、新生「J Soul Brothers」に参加。09年からパフォーマーとしてEXILEに加入。近年は役者としてドラマや舞台などでも活躍中。青年海外協力隊50周年記念映画「クロスロード」（11月公開）では、ボランティアの在り方に疑問を抱く主人公を熱演した。

映画「クロスロード」の撮影で、僕は初めて開発途上国に足を踏み入れました。フィリピンには青年海外協力隊OBが同行してくれて、夜のマニラの裏道を歩いていたとき、お母さんと裸の赤ちゃんが道で寝ている光景に出会ったんです。とてもショックでした。そんな戸惑いを抱いて、現地撮影に入りました。

協力隊員の役柄を演じるということで、事前に協力隊経験者の方にいろいろと伺いました。その中で、「協力隊には言葉や文化の壁があり、ボランティアの日本人に何ができるのかと疑念を抱かれることが多い。でも、一つの取り組みがうまくいくと、信頼が生まれ、仕事が広がる」という話があったんです。映画の中でも、民族舞踊を教えてもらいながら歌って踊るシーンがあるんですが、僕が知らなかった踊りを学びながら一緒に踊ることで、周りの人たちと仲良くなれたとき、心が通じ合ったように感じました。

僕は現地に行く前、フィリピンにはきれいな観光地というイメージを持っていました。でも、実際に行ってみると、首都マニラでは貧富の差が激しくてスラムもあり、郊外には緑があるのに水が汚染されていて飲めない所もあると知りました。でも、水を汚染する鉱山の仕事がなくなったら、地元の人は食べていけないし、外国人である僕らに何ができるのかと悩まざるを得ません。僕や、この映画を見てくれた人たちが、いつかあの水をきれいにするために立ち上がれる人でなければならないと思いました。

僕がこれまでやってきたボランティア活動は、EXILEのメンバーとして被災地でライブをすることが中心でした。パフォーマーとして夢を与える仕事、日本を元気にしたいという思いも、ある種のボランティアと言えるかもしれません。でも、普段の生活では、海外まで行ってボランティアをするきっかけなんて、なかなかありませんよね。「何がきっかけで、海外までボランティアをしに行くんだろう」。今回の撮影を通して、協力隊のみなさんや現地の人たちと出会うことで、僕にも少しずつ分かってきた気がします。映画の主人公・沢田も、最初は何で人がボランティアに行くのか分からなかった、ボランティアなんて偽善だと言い切るような青年でした。でも、周りのボランティアや、開発途上国の現実を目にして、少しずつ気持ちが変わっていきます。僕は、映画の撮影を通して、沢田の経験を追体験できたと感じています。

途上国の現状や日本のボランティアの活躍は、実際に現地に行ってみなければ分からない――これが、映画の撮影を通して僕が感じたことです。この映画は実話に基づく部分も多く、協力隊のリアルに迫る作品になったと思いますが、それでも映像だけでは伝わらないものがたくさんあるんです。この映画をきっかけに、協力隊に参加し、自分の目で途上国を見に行く人が増えてほしいと思います。

「なんとかしなきゃ！プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索

VEGETABLE OIL INK